

**製品名: FoxO1 (リン酸化Ser256) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04694**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	82kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FOXO1
別名	FOXO1; FKHR; FOXO1A; Forkhead box protein O1; Forkhead box protein O1A; Forkhead in rhabdomyosarcoma
遺伝子 ID	2308.0
SwissProt ID	Q12778
免疫原	抗血清は、Ser256 のリン酸化部位周辺のヒト FKHR 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 223-272

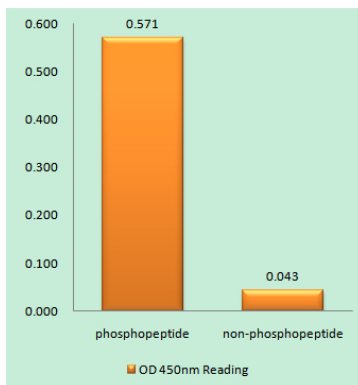
**背景**

この遺伝子は、明確なフォークヘッドドメインを特徴とする転写因子のフォークヘッドファミリーに属します。この遺伝子の特定の機能はまだ決定されていませんが、筋形成の成長と分化に役割を果たす可能性があります。この遺伝子と PAX3 の転座は、胞巣型横紋筋肉腫に関連しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：FOXO1 に関連する染色体異常は、横紋筋肉腫 2 (RMS2) [MIM: 268220] の原因です。胞巣型横紋筋肉腫としても知られています。PAX3 との転座 (2;13) (q35;q14)、PAX7 との転座 t (1;13) (p36;q14)。結果として生じるタンパク質は転写活性化因子です。機能：転写因子。PTM：AKT1 によってリン酸化されます。インスリン誘導性 (類似性による)。IGF1 は Ser-256、Thr-24、および Ser-319 のリン酸化を急速に誘導する。Ser-256 のリン酸化は DNA 結合活性を低下させ、Thr-24 および Ser-319 のリン酸化を促進し、おそらく CK1 によって Ser-322 および Ser-325 のリン酸化を誘導し、核からの排除と機能喪失につながる。Ser-329 のリン酸化は IGF1 とは独立しており、機能低下につながる。DNA 損傷時にリン酸化されるが、おそらく ATM または ATR による。類似性：1 つのフォークヘッド DNA 結合ドメインを含む。細胞内局在：細胞質と核の間を往復する。サブユニット：LRPPRC と相互作用する。組織特異性：遍在性。

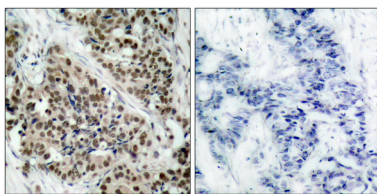
## 研究分野

インスリン受容体; B 細胞受容体; タンパク質アセチル化

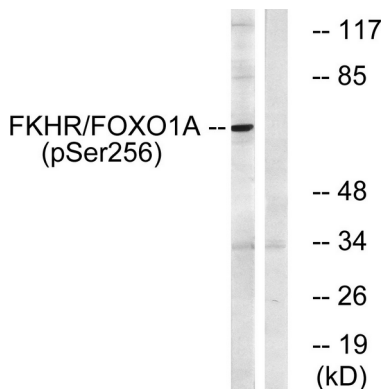
## 画像データ



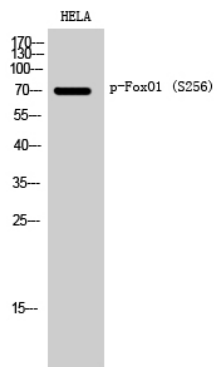
FKHR (リン酸化 Ser256) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



FKHR (リン酸化 Ser256) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF+血清処理した HeLa 細胞ライセートの FKHR (リン酸化 Ser256) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 希釈のホスホ FoxO1 (S256) ポリクローナル抗体を用いた HELA 細胞のウェスタンブロット解析